

事例 29 グループ訪問型総合学習(1)

DATA

場 所：福島県 国土交通省 福島工事事務所
 実 施 者：福島工事事務所 地域づくり推進室 [TEL(024)546-4331]
 参 加 者：福島市立福島第四中学校1年生 女子3名 男子3名 計6名
 実 施 日：平成13年5月17日
 学 習 時 間：1時間程度

関係する分野



背景

福島市立福島第四中学校1学年の総合学習で「自分達の住んでいる福島を知り、みんなに知らせよう」というテーマのもと、学校のすぐわきにあり、登下校で利用している信夫山トンネルが、なぜ福島のシンボルである信夫山に穴を開ける形で建設されたのかに疑問を持ち、福島工事事務所を訪れました。

内容

信夫山トンネルの歴史(由来)について、事務所の担当者から説明を受け、質問に答えたりして現場の苦勞や整備効果などを学んでもらいました。また、学んだことを踏まえて、実際にトンネルへ行って調査を行ったり、県立図書館で書籍から学んだりして、信夫山トンネルについての知識と理解を深めていってもらいました。



プレゼンテーションソフトを使用している説明



事務所の方の説明に熱心に耳を傾ける



身近な場所の意外な歴史が明らかになっていく



生徒らの取り組みは真剣そのもの

ポイント

- 道路と地域の歴史をからめながら、トンネル建設の理由について学びます。
- トンネル開通で、町がどのように変わったのか考えます。
- トンネルの構造や、設備と工夫について学びます。

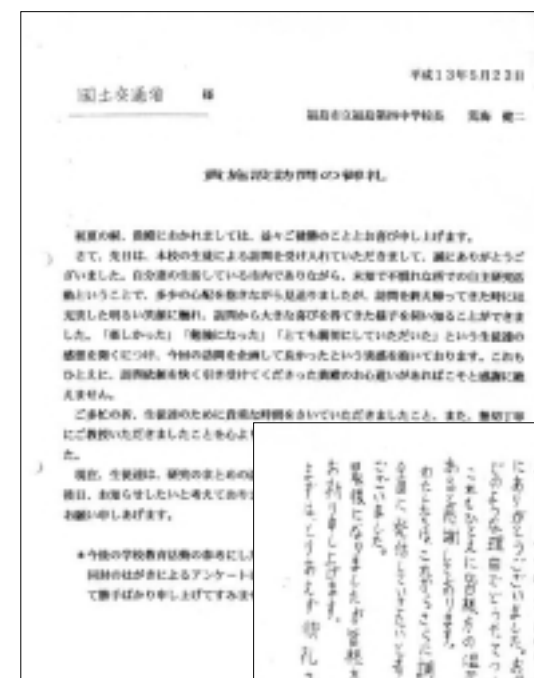
成果

生徒達の中にある生活と密着した日常の疑問を、担当者から直接聞き、質問していくことにより解決していくという総合学習の流れから、生徒達の中に「自分で調べ、まとめる」という実践的な姿勢が養われました。実際に働いている人と生徒たちが触れ合うということを感じることが出来、生徒達が人間として成長する過程での大きな習得となりました。

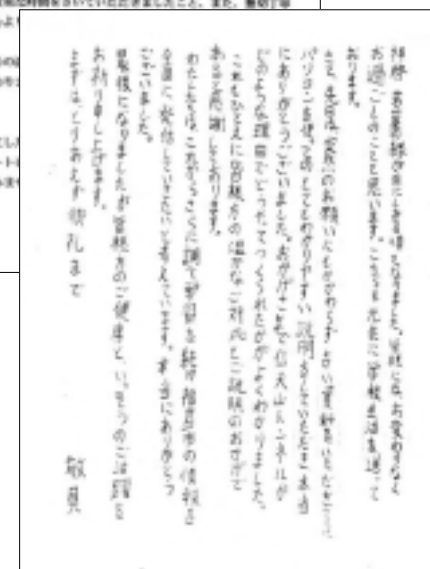
参加者の声

「パソコンを使っただけでもわかりやすい説明で、信夫山トンネルがどうやってつくられたかがよくわかりました。わたしたちはこれからさらに調べ、学習を続け、福島市の情報を全国に発信していきたいと考えています。」 (福島私立福島第四中学校 1年生)

「自分たちの生活している市内でありながら、未知で不慣れな所での自主研究活動ということで、多少の心配を抱きながら見送りましたが、訪問を終え帰ってきたときには充実した明るい笑顔に触れ、訪問から大きな喜びを得てきた様子を伺い知ることができました。本当にありがとうございました。」 (福島私立福島第四中学校 校長)



参加者から届いたお礼状



次のステップに向けて

- 生徒達の中に新たに生まれた、「トンネルの工事の仕方」「道路を建設する時の条件」「道路をめぐる問題について」、などといった様々な疑問を生かし、次の学習へ発展させていくことも考えられます。
- 自分達が何気なく登下校で利用しているトンネルの裏には様々な苦勞があり、また、トンネルが完成したために自分達がここを通過して通学しているということを実感してもらい、改めて「道とはなにか?」という学習を深めることも考えられます。